

(執筆者紹介)

垂水 千恵 (たるみ・ちえ)	1957 年生	横浜国立大学留学生センター助教授
李 郁蕙 (り・いくけい)	1970 年生	広島大学大学院教育学研究科博士課程
丸川 哲史 (まるかわ・てつし)	1963 年生	一橋大学大学院言語社会科学研究科博士課程
陳 文玲 (ちん・ぶんれい)	1960 年生	東京都立大学大学院社会科学研究科博士課程
劉 夏如 (りゅう・かじょ)	1970 年生	東京大学大学院総合文化研究科博士課程
渡辺 剛 (わたなべ・たけし)	1969 年生	千葉大学非常勤講師
許 雪姫 (きよ・せっき)	1953 年生	中央研究院近代史研究所研究員
張 士陽 (ちょう・しやう)	1955 年生	東京大学大学院人文社会研究系助手
松田 康博 (まつだ・やすひろ)	1965 年生	防衛庁防衛研究所主任研究官

第二号編集後記

『日本台湾学会報』第二号ができあがりました。本誌の編集につきましては、各論考、研究ノート
の執筆者及び審査に当たられたレフェリーの方々から、多々、ご協力いただきました。ここに深
く感謝申し上げます。

第二号の編集を担当し、『日本台湾学会報』は、他の学会活動とともに、経験を蓄積することによ
って、少しずつ内容を進化させていくものであるということがわかりました。第二号での進歩は、
裏表紙に英文目次を付けたことです。今後も、学会の顔の1つとして、『日本台湾学会報』を充実
させていく試みを続けていきたいと思えます。

『日本台湾学会報』を進化させるためには、新しい試みとともに、反省の積み重ねが欠かせませ
ん。第1の反省点は編集作業のスピードです。最低限必要な編集作業しか行っておりませんが、そ
れでも原稿提出の締め切り日から発行まで、半年以上かかってしまいました。第2の反省点は体裁
です。これまでの二号では、体裁は基本的に著者にお任せしていました。その結果、雑誌としては
かなり不統一になっています。個人的には、もう少し統一した方がいいと考えています。皆様から
も、どのようにしたらより魅力的な『日本台湾学会報』となるのか、忌憚のないご意見をお寄せ
いただきたいと思います。

このような編集技術の向上とともに、『日本台湾学会報』を進化させる最大の原動力は、何と言っ
ても、会員の皆様からの投稿です。第三号におきましても、皆様から積極的な投稿が寄せられるこ
とを期待しております。

(佐藤幸人)